

第 6 章

絆を深めたイベントの数々

多くの被災者は、海への恐れを払拭できないままだった。だがそこには、全国から訪れるボランティアたちが一様に息をのむほど美しい七ヶ浜の海があった。もう一度この海のもとで憩い、希望をはぐくみ交歓できる場が必要だった。

6.1 浜を元気にするイベントとボランティア

6.1 浜を元気にするイベントとボランティア

ボランティアセンターは周囲の団体と協力しながら地域に呼びかける形で色々なイベントを企画、実行してきた。それは七ヶ浜に活動に来てくれたボランティアの方々の復興を願う「熱い気持ち」に応え、七ヶ浜を「第2の故郷」だと感じてほしいという願いと、被災した町民に少しでも元気になってほしいという思いからである。

開催されたイベントを紹介していこう。

6.1.1 菖蒲田浜・復興まつり

＜平成23年（2011）年9月10日＞

東日本大震災で大きな被害を受けた七ヶ浜町では、近郊の方々にとっての思い出の砂浜である菖蒲田浜をよみがえらせ、地域の方々の誇りを取りもどすために、地元をはじめ県内外のボランティアによって砂浜の清掃活動が展開された。

そのような中で、七ヶ浜町災害ボランティアセンターでは、震災から6か月がたとうとする平成23年の9月10日（土）、NPO法人レスキューストックヤードや地区代表、その他の各ボランティア団体と共に、地域住民とボランティアが触れ合う



午前中は各地より集まったボランティア約1500名によって、海浜清掃が行われた

＜内容＞

1. 菖蒲田浜での清掃活動
2. 菖蒲田浜での記念セレモニー
3. ステージイベントと露店出店
4. 打ち上げ花火

ための記念イベントを企画。復興への想いと浜の再生を願って「菖蒲田浜・復興まつり」として開催した。

この催しにはまた、砂浜を震災以前の癒しの場所へ戻すこと、震災のために各地区で開催できなかった夏祭りを秋祭りとして開催すること、それらを通じて心の復興への足がかりとすることなどの意図が込められていた。



被災地で初めての浜のイベントに報道陣も多数集まった。

◆ 記念セレモニー（はまぎくの苗の植栽）

復興への願いを込めて、町花である「はまぎく」の苗の記念植栽が行われた。津波への恐怖で海に近づけない町民が多い状況から、「逆境に立ち向かう」という花言葉をもつ町花のはまぎくの苗を植えることで、少しでも人が集まりやすい環境を作ることを目指した。

また、住民とボランティアが苗を一緒に植えることにより、交流を深める意義もあった。海岸のはまぎくは壊滅していたが、インターネットを通じて支援を依頼し、苗を確保した。その結果、全国から 2000 株の苗が届けられた。



「がんばるよ」と、はまぎくに祈りを込める親子

場	所	宮城県七ヶ浜町・菖蒲田浜海岸
日	時	2011 年 9 月 10 日（土） 12 時 45 分～19 時 30 分
参 加 対 象		地元住民、および全国の一般市民
来 場 者 数		4,000 人（開催期間 1 日／天気・快晴）
主 催		菖蒲田浜・復興まつり実行委員会・七ヶ浜再生プロジェクト実行委員会
協 力		豊かな海を守る会、仙台サーフショップユニオン、海の学校、七ヶ浜ハマボウフウの会、NPO 法人 杜の伝言板ゆるる、かほく「108」クラブ、多賀城市市民活動サポートセンター、みやぎ生活協同組合、NPO 法人レスキューストックヤード、財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク(MELON)
はまぎくの苗提供		社団法人日本植木協会、みずほフィナンシャルグループ、茨城県日立市水木小学校、愛媛県・花心 (Kashin)

6.1.2 ボランティアセンター「納会」 ＜平成 23（2011）年 12 月 25 日＞

発災後無我夢中で活動してくれた多くのボランティアさんをねぎらいたいと、暮れも押し迫った平成 23 年 12 月 25 日、ボランティアセンターのスタッフや地元学生ボランティアらが中心となり、「納会」を開催した。

午前中は参集した継続ボランティアと共に、「すぱーく七ヶ浜」をはじめとするボランティアセンター内外の大掃除を行った。

続いて昼食をかねて、センター内を借りての納会を開催。

当時学校を休学してスタッフとして従事した町民、佐藤冬樹さんの司会でスタートした。それぞれの自己紹介から始まり、ボランティアどうしの交流も深まった。

参加者は、総勢 150 名ほど（参加費 2,000 円）で、午後 5 時くらいまで宴はつづいた。

この会をきっかけに、活動者どうしの絆がより深まった。

場	所	七ヶ浜町災害ボランティアセンター（すば一く七ヶ浜）
日	時	2011 年 12 月 25 日（日） 午前・清掃 午後・納会
参 加 対 象		町内外のボランティアさん ボランティアセンタースタッフ
参 加 人 数		約 150 名（参加費：2,000 円）
主	催	七ヶ浜町災害ボランティアセンタースタッフ有志

6.1.3 「一年目の集い」 <平成 24（2012）年 3 月 10 日>

発災から丸 1 年となる平成 24 年 3 月 11 日付けで、ボランティアセンターは「浜を元気に！七ヶ浜町復興支援ボランティアセンター」と名称が改められた。

このころからボランティアの活動内容としては、屋外を中心とした作業とともに、応急仮設住宅の集会所やボランティアセンター周辺の集会スペースで行われるサロン活動やイベントなど、被災者の気持ちを支える活動の必要性が増してきた。

ボランティアセンターの名称が変更になることを機に、犠牲者に追悼の気持ちを表すための「集い」を開催しようという案が、ボランティアスタッフから上がるようになった。そこで、スタッフ・リーダー会議を重ねて、「一年目の集い」を開催することとなった。

担当は地元の学生ボランティア、佐々木彬聡さんと花立巖さんをチーフとし、全国大学生協ボランティアセンターが共に企画にあたった。集いの内容は以下の通りである。

◆「座談会」

・9 時 30 分開始。ボランティアが 10 グループに分かれ、作業リーダーが進行を担当して、現在の活動の目的、いままでの体験や今後の活動の方針などを話し合った。当初は、菖蒲田浜の清掃を行う予定だったが、雨のため座談会に変更された。

◆「一年目の集い」

・13 時 00 分開始。場所を中央公民館「大会議室」に移して、「一年目の集い」を開催。500 名以上のボランティアが集合した。

・司会進行は、関西の大学生小林亜理沙さんと槇島江梨佳さん。

・大学生協ボランティアセンター長の富川竜生さんが作成した「七ヶ浜町ボランティアセンターDVD」を鑑賞。

・地元在住の高校生ボランティア星洸佳さんからの「ありがとうの手紙」が、小林さんによって代読され、活動に従事したボランティアの労をねぎらった。



一年目の集いに参加したボランティアのみなさん。最前列左から佐々木彬聡さん、小林亜理沙さん、筆者、槇島江梨佳さん。

・全国のボランティアさんからのメッセージが、一冊の本としてボランティアセンターに贈呈された。

・参加者 500 名以上が横断幕にメッセージを書き今後の復興を誓った。この横断幕は、今もボランティアセンターに掲げてある。



朝礼を仕切る佐々木彬聡さん

場 所	七ヶ浜町災害ボランティアセンター（すぱーく七ヶ浜） 七ヶ浜町中央公民館 大会議室
日 時	2012 年 3 月 10 日（土） 午前・座談会 午後・一年目の集い
参 加 対 象	町内外のボランティアさん ボランティアセンタースタッフ
参 加 人 数	約 500 名
主 催	七ヶ浜町災害ボランティアセンター 若手スタッフ有志

6.1.4 第1回「ありがとう七ヶ浜・海まつり」 ＜平成24（2012）年7月27～29日＞

1 年 4 か月にわたって活動に従事してきたボランティアの皆さんに感謝の気持ちをこめて、真夏の菖蒲田浜海岸と海浜公園において「ありがとう七ヶ浜・海まつり」を開催した。この催しは、七ヶ浜住民だけではなく復旧半ばの近隣被災地に対しても、「共に頑張ろう」という気持ちを表したものだ。

また、震災前の地区住民が散り散りになっている現状をふまえ、もう一度「浜」に住民や近郊の方々が集まり、いずれ本格的に海開きをするという目標を共有し、その目標に向かって活動を継続していくという態度の表明でもあった。

企画意図の紹介もかねて、当時作成されたホームページから抜粋してみよう。

日本全国、世界各国から、七ヶ浜町の復旧復興に協力いただいているボランティアの皆さんへ感謝の気持ちを！

ありがとう七ヶ浜・海まつり

2012.7.27(金)～29(日) 菖蒲田浜海浜公園

7/27～29は、インターネット生中継LIVEが会場の模様を生放送！詳しくは、QRコードをチェック！！

「ありがとう 七ヶ浜・海まつり」実行委員会
〒985-0802 宮城県七ヶ浜町菖蒲田山5-4生涯学習センター内、「ボランティア」きずな館
TEL 022-352-7130 FAX 022-352-7131 E-mail: shichikagami@seigang.jp
～お問い合わせは、外番日から日曜日 10:00から16:00まで～

海まつりのポスター（デザインは仙台市在住の清和真由美さん）

震災以来、海が怖くて近づけない方々がまだ大勢います。でもこれだけ浜がきれいになったんだということを知って欲しい。明治より続いてきた菖蒲田浜海水浴場。多くのみなさまの思いがいっぱいつまった海水浴場。本格的な海水浴するにはまだまだ整備と時間が必要です。

今回の震災は本当に苦しく悲しい出来事です。自分の大事な人が目の前を津波で流された人、愛する家族の変わり果てた姿での再会、長い年月をかけて築いてきたものを一瞬にして失った大

勢の方々が今でも苦しさから抜け出せずにいます。

復興へはインフラ整備、住宅問題、雇用の問題と多岐にわたって山積みです。何が海まつりだという人もいます。しかし、この震災がなかったらきっと会うことがなかった人々との出会いと温かい気持ちに伝えたい。

恐怖から回復し美しい浜を見ていつか素直に美しいと思える気持ちを取り戻して欲しい。

だからこそ『心の復興の始まり』としてやらなければならないのです。

人の力、心で美しく甦った砂浜のお披露目です。

天候にも恵まれ、震災後初の海遊びを楽しむ参加者で浜辺はにぎわった。3日間のステージもイベントが目白押しの内容で、大人から子ども連れまで、ひと時の「夏」を取り戻したかのようだった。二日目の夜には花火が打ち上げられ、町民もボランティアも感激の声をあげていた。ボランティアさんへの「ありがとう」を表す「まつり」だったが、運営を担当したのも県内外のボランティアだった。



イベント広場に集まる観衆と、波で遊ぶ人達で菖蒲田海岸は久し振りににぎわった。



町のパフォーマンスカンパニー「Groove7」が、ジャンベの演奏で盛り上げてくれた！



海岸やステージに通じる歩道には出店が軒を連ねた。

<内容>

- ・ 音楽演奏
(町内外のアーティストが多数参加)
- ・ お楽しみイベント
- ・ フラダンス
- ・ チアダンス
- ・ 花火 等



チアダンスチーム「WINGS」は、震災後の町を元気にしたいとけ結成され、この日が彼女らの初舞台となった

場	所	七ヶ浜町菖蒲田海岸 海浜公園
日	時	2012年7月27日(金)～29日(日)
参 加 対 象		町内外のボランティアさん ボランティアセンタースタッフ
来 場 者		約5,000名 (3日間快晴)
主 催		ありがとう海まつり 実行委員会(実行委員長 遠藤久和氏)
協 力		七ヶ浜町ボランティア友の会、七ヶ浜町復興支援ボランティアセンター、サーフショップ マティーズ、NPO 法人杜の伝言板ゆるる、みやぎ生活協同組合、NPO 法人レスキューストックヤード、財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク(MELON)、丸紅株式会社、セガサミー株式会社、ストロングミヤギ、神薙町内会、丸紅株式会社、サッポロビール株式会社、株式会社みずほフィナンシャルグループ、NPO 法人日本災害救護推進協議会、SUNRISE Surf Life Saving Club、一般社団法人七ヶ浜復興研究室なならば、サーフガード久米島、からだ復興支援隊「ボディヶ浜」、セブンスター、株式会社 イトオン、ドラムカフェジャパン、宮城県漁業協同組合七ヶ浜支所、多賀城・七ヶ浜商工会、東北森林管理局 仙台森林管理署、ネクスコメンテナンズ東北、地元漁業者、消防団、JACK IN SMILE (順不同、敬称略)。

6.1.5 絆メモリアルイベント

＜平成 25 (2013) 年 3 月 16 日＞

発災から2年目にあたり、町民やボランティアをはじめ、支援して下さった方々が一堂に会し、震災で犠牲になられた方々を鎮魂しようと、平成 25 (2013) 年 3 月 16 日、「絆メモリアルイベント」を開催した。

◆菖蒲田浜海岸清掃

- ・ 場所 菖蒲田浜海水浴場周辺
- ・ 集合 七ヶ浜町災害ボランティアセンター(すぱーく七ヶ浜)
- ・ 集合時間 9 時 15 分

◆メモリアルコンサート

- ・ 七ヶ浜国際村ホール
- ・ 開場 13 時 30 分
- ・ 開演 14 時 00 分





開会の挨拶をする平山良一七ヶ浜町社会福祉協議会事務局長



国際村エントランスホールではカフェコーナーも設けられた。



NPO 法人「あっちこっち」によるコンサートは、追悼の気持ちとともに参加者に癒しを与えた。



名古屋からきたゴスペルグループ「VOV」と七ヶ浜パフォーマンスカンパニー「NaNa5931」の共演！

<内容>

「復興への軌跡」DVD 上映、町民とボランティアからの「ありがとうの手紙」朗読、ビオラコンサート（NPO 法人あっちこっち）、・ゴスペル VOV（Voices of Vision、名古屋）友情出演 NaNa5931、Welcome コーヒー&スイーツの提供、サンドアート展示、終了後プチ交流会、記念品プレゼント



国際村入口に飾られたサンドアートは被災者や支援者らが作成した。

メモリアルコンサート終了後に町民から菖蒲田浜の砂と地元高校生からのメッセージが入った小瓶がボランティアに配られた。そのメッセージには「巡り会えたことに感謝」、「元気をくれてありがとう」と書かれていた。



ボランティアに配られたメッセージ入りの小瓶。

場 所	七ヶ浜町菖蒲田浜海岸 七ヶ浜町国際村ホール
日 時	2013 年 3 月 16 日（土） 午前・海岸清掃 午後・メモリアルコンサート
参 加 対 象	町内外のボランティアさん ボランティアセンタースタッフ
参 加 人 数	約 500 名
主 催	七ヶ浜復興応援サポータープロジェクト（七ヶ浜町社会福祉協議会・浜を元気に！七ヶ浜復興支援ボランティアセンター）七ヶ浜国際村事業協会
協 賛	三井住友銀行 第 10 回ボランティア参加者一同
助 成 協 力	災害ボランティア活動支援プロジェクト会議派遣団体活動応援資金
協 力	アクアゆめクラブ、7up-reteam、あっちこっち、VOV、七ヶ浜町ボランティア友の会、七ヶ浜町文化協会、七ヶ浜きずな工房、仮設店舗「七の市商店街」、一般社団法人七ヶ浜復興研究会「なならぼ」、からだ復興支援隊「ボデイク浜」、七ヶ浜ぼーえーし隊 第なな小隊「たぬき団」
団 体 事 務 局	NPO 法人レスキューストックヤード

6.1.6 第2回「七ヶ浜海まつり」

＜平成 25（2013）年 7 月 27、28 日＞

「海開き」を目標に大勢のボランティアが菖蒲田浜の清掃を展開してきた。復興の証でもある「浜辺の賑わいを再び！」との声に支えられ、「海まつり」と名打って二日間だけイベントを開催した。今回は地元ボランティア団体が主体となり運営もその団体が担当した。県外からのボランティアや町民には浜で思いっきり遊んでももらいたいとの思いからだった。

残念なことに天候にはめぐまれなかったが、スイカ割り・サンドアート等昔ながらの海遊びを企画したことは震災前の菖蒲田浜に想いを巡らすイベントになった。

タイムカプセルには「早く海で泳ぎたい！」「きれいな海をもどしてほしい」との子ども達の願いが書かれていた。



＜内容＞

・祈祷・黙とう、タイムカプセルへのメッセージ記入、スイカ割り、サンドアート、救助法イベント





8チームが参戦したサンドアート、工夫を凝らした作品はどれも素晴らしいものばかり。



夏の定番はやっぱり「スイカ割り」ほのぼのした時間がながれました。

場	所	七ヶ浜町菖蒲田海岸 海浜公園
日	時	2013年7月27日（土）、28日（日）
参 加 対 象		町内外のボランティアさん ボランティアセンタースタッフ
来 場 者		約1,500名 （初日：雨、2日目：雨のち晴れ）
主 催		第2回 七ヶ浜海まつり実行委員会 （実行委員長 吉川一利氏）
協 力		七ヶ浜町ボランティア友の会、七ヶ浜町復興支援ボランティアセンター、NPO 法人レスキューストックヤード、財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク(MELON)、丸紅株式会社、ストロングミヤギ、丸紅株式会社、サッポロビール株式会社、株式会社みずほフィナンシャルグループ、NPO 法人日本災害救護推進協議会、SUNRISE Surf Life Saving Club、一般社団法人七ヶ浜復興研究会なならば、サーフガード久米島、からだ復興支援隊「ボディヶ浜」、セブンシーズ、宮城県漁業協同組合七ヶ浜支所、多賀城・七ヶ浜商工会、ネクスコメンテナンス東北、地元漁業者、消防団、JACK IN SMILE（順不同、敬称略）

6.1.7 七ヶ浜町農地復旧感謝祭 <2013（平成25）年10月19日>

農地復旧に携わった4万人以上のボランティアさんへ「感謝の気持ちを表したい」と、町関係団体が「七ヶ浜町農地復旧感謝祭」の実行委員会を立ち上げて、産業課とボランティアセンターが運営を担当した。

当日はボランティア・町民・スタッフ合わせて500名が参集し、セレモニーでは、渡邊善夫七ヶ浜町長が挨拶、「感謝祭ができることは感無量！ボランティアさんのおかげです」と述べた。また、鎌田節夫七ヶ浜町社会



500名の参加者へ「復旧への感謝」を伝える渡邊善夫町長。

福祉協議会会長からも挨拶があった。

イベントとして当初は、枝豆の収穫を予定していたが、収穫時期がずれたために町民に呼びかけて一週間前の収穫となった。感謝祭当日は、JA 仙台七ヶ浜支店が急遽他の畑から運んだものを参加者が収穫した。

また、地元の子どもたちで結成しているチアダンスサークル「WINGS」に加え、七ヶ浜町の復興を手伝いたいと栃木県から来町したアフリカダンスサークルの40名が収穫を祝う感謝の踊を披露し、会を盛りあげてくれた。

地元農業者団体の若者たちからはカニ汁が、町民有志やボランティア友の会、結の会からは、おにぎり等 500 食がふるまわれた。また、東京のデザイン会社である株式会社若木屋さんからは、100 本のアジサイが「ボランティアの樹」として寄贈された。

最後に、ボランティアを代表して千葉県在住の北村友一さんが挨拶を行った。北村さんにとってこの日は奇しくも 100 回目のボランティア活動日だった。



被災した農地で収穫された「お米」や「えだ豆」などが、町民によってふるまわれた。

<企画意図> (チラシより抜粋)

◆町民農園「海遊ほのぼの農園」をご存じですか？

阿川沼に隣接するこの畑は今回の津波で壊滅状態になりました！ 大型瓦礫は行政が手掛けましたが、今年の 5 月より、4,000 人以上のボランティアさんの「手作業」で石ころ・ガラスなどを取り除き、ようやく安全な畑をとりもどしています。まだまだ完全復旧とは言えませんが、今後町民の皆さんと共に種をまき、秋には収穫の喜びを味わえたらと……「ほのぼの農園に行こうプロジェクト」を企画しました！

場	所	町民海遊公園「ほのぼの農園」
日	時	2013 年 10 月 19 日（土） 8 時 30 分～13 時 00 分
参 加 対 象		町内外のボランティアさん、ボランティアセンタースタッフ、農業関係者
来 場 者		約 500 名
主 催		七ヶ浜町農地復旧感謝祭実行委員会 ＜七ヶ浜町農業委員会・七ヶ浜土地改良区・仙台農業協同組合東部営農センター・七ヶ浜生産組合・宮城県仙台地方振興事務所農業振興部・宮城県仙台地方振興事務所農業農村整備部・七ヶ浜町産業課・七ヶ浜町社会福祉協議会（浜を元気に！七ヶ浜町復興支援ボランティアセンター）＞
協 賛		有限会社 松島屋海苔店、七ヶ浜野菜倶楽部、仙台コココーラボトリング株式会社、NPO 法人 樹恩ネットワーク、株式会社 若木屋、ボディケア七ヶ浜、増田幸徳、漁業者農業者一同、JA 仙台七ヶ浜支店（順不同、敬称略）

<七ヶ浜町社会福祉協議会 星 真由美>

<Memo>